

日刊旅行通信

Wing Travel Daily

発行所 航空新聞社：ウイングトラベル編集部編
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-7-8 ヒルクレスト373・4階
TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645
<http://wingnews.net> <mailto:mail@wingnews.net>
購読料 半年35,200円 年間66,000円（消費税含む）

【トップニュース】

★グローバルユース、「台湾温泉の旅」を商品化 文藝春秋と共同企画、小佐野弾氏が講演

グローバルユースビューローはこのほど、東京・虎ノ門の本社で、文藝春秋と共同企画によるグローバル特別講演会を開催した。講師は歌人、作家、実業家の小佐野弾氏で、温泉ソムリエの資格を持ち、台北市に在住の同氏が「奇跡の温泉～新しい癒し 台湾の名湯めぐり～」と題して講演した。また、同社は文藝春秋との共同企画により「日本から近い癒やしの国 台湾の温泉」ツアーを発売した。

温泉ソムリエの小佐野氏が台湾各地の温泉を取材する文藝春秋の人気連載企画「奇跡の温泉」で紹介された烏来の隠れ家温泉宿「ヴォランド」で宿泊して日頃の疲れを癒やすとともに、台北、九份、十分を満喫するツアーを企画、造成した。

小佐野氏は温泉の効能について、1泊、2泊の逗留でも温泉は心身の癒しになり、不眠、自律神経、ストレスなどの改善にかなりの効果が期待できると説明した。

例えば、週1回の温泉体験を3カ月続けると、2～3週間逗留する湯治と同様の効果が得られると語り、週1回の温泉体験を勧めた。また、温泉成分は3時間で体に吸収されるので、温泉から出るときは体を洗い流さないようにすることと、冷水と温泉に交互に浸かる温泉交代浴を勧めた。

台湾と日本の温泉の違いについては、台湾は自然湧出が多く、日本は掘削してポンプ組み上げが多いとし、台湾の温泉がより自然のままの状態であることを強調した。台湾



※写真＝文藝春秋と台湾温泉の旅の特別講演とツアー商品を共同企画

の温泉は炭酸水素塩泉が多く、pH値が高い、とろみのある湯が多いという。

日本は太平洋造山帯にあり、4つのプレートの動きで、火山が発生する。一方で、台湾はフィリピンプレートとユーラシアプレートの沈み込みによる造山帯で、北東温泉、烏来温泉など様々なタイプを温泉がある。

台湾の温泉は漢民族が16世紀に流入以前に先住民が発見し、日本総督府時代に温泉が日本人が温泉が湧いているのを発見し、広まったという。台湾は温泉を中心に自然の絶景やヨガ、瞑想などを組み込んだ「非日常を体験できる温泉」をアピールする温泉宿も特徴の一つという。

小佐野氏は、海外の温泉体験の第一歩を台湾から始め、その後はハンガリーやドイツなど世界の温泉を旅することを推奨した。同氏は「温泉は地球の体液」と表現、世界の温泉を旅し、日本以外の温泉にぜひ親しんでほしいと語った。

烏来温泉「ヴォランド」宿泊ツアーを企画 台北から1時間、森林の溪谷美とフレンチ

グローバルユースビューローは来年1月22日、2月24日に羽田発で、「隠れ家温泉宿と美食を堪能する癒やしの台湾」3泊4日のツアーを商品化した。ラグジュアリーな隠れ家温泉宿で日頃の疲れを癒やすため、宿泊ホテルはルレ・エ・シャトーに加盟する烏来温泉のヴォランド・ウーライ・スプリング・スパ&リゾートに1泊、リージェント台北に2泊する。

ヴォランドは全室温泉付きで、自然に囲まれたラグジュアリーな隠れ家温泉宿。全ての部屋に温泉が付いており、好



※写真＝特別講演で後援する小佐野弾氏

きな時間に好きなだけプライベートに温泉を楽しむことが可能。烏来温泉は台北から車で1時間ほどのところにあり、スパも別途料金で楽しめる。

烏來のホテルでの食事は、地元の食材を使い、フレンチの要素を取り入れた創作料理。レストランの窓からは、烏來の豊かな森林と溪谷美を見られる。

また、台北ではリージェント台北に宿泊し、予約の取りづらい3つ星レストランでの食事、台湾名物の小籠包も用意した。さらに、台北滞在中に九份の散策、「天燈上げ」の十分に日帰りで案内する。

同商品の旅行代金は1月20日、2月24日出発ともに、42万8000円から45万8000円。ビジネスクラス追加料金は16万円。燃油サーチャージは別料金で、空港諸税は代金に含まれる。ツアーには旅行期間中の海外旅行保険が含まれる。



※写真＝「隠れ家温泉宿と美食を堪能する癒やしの台湾」を商品火

【旅行関連】

★日観振「2023日台観光サミットin愛知」開催 2025年に双方向700万人回復へ「愛知宣言」

日台観光推進協議会は9月8日、台日観光推進協議会と「2023日台観光サミットin愛知」を名古屋観光ホテルで開催し、持続可能な観光と双方向交流の発展に向けて、環境保全を前提に輸送能力の早期回復し、2025年の相互交流人口を2019年水準の700万人に戻すとともに、人手不足や人材育成等の課題に協力、質的向上による観光消費額の拡大、需要の分散によるオーバーツーリズムへの配慮などを軸とした日台観光サミット「愛知宣言」に合意した。次回は来年、台湾の高雄市で開催することも決定した。

「2023日台観光サミットin愛知」は、山西日観振会長を始め、本保芳明(観光庁参与、花井 郁子日本台湾交流協会総務部長、伊与田美歴日本政府観光局理事、金子正志中部運輸局長、大村 秀章愛知県知事、高橋広行日本旅行業協会会長ほか、地方自治体・観光協会、観光業界、旅行関係者ら100名、開催地の愛知県関係者40名が出席した。

台湾側は葉菊蘭台日観光推進協議会会長・台湾観光協会会長、謝長廷台北駐日経済文化代表処代表、林信任交通部観光局副局長、洪英傑 台北駐大阪経済文化弁事処処長、鄭憶萍台湾観光協会東京事務所長ほか、台湾側観光業界、



※写真＝日台観光サミットで「愛知宣言」採択

旅行関係者、運輸機関、メディア等から70名が出席し、日台合計で210名が参加した。

持続可能な観光実現へ相互取り組み共有化

同サミットでは、「日台の緊密な連携と持続可能な観光の実現」について議論し、その結果、日台双方は「持続可能性」を念頭に2025年の相互交流人口を2019年水準の700万人に戻すことを目指し、より緊密な連携・協力を図ることで一致した。

具体的な施策は、環境保全を前提に輸送能力の早期回復、双方の人手不足、人材育成の課題解消に向け、相互の取り組みの共有を図る。合わせて、訪問者数等の量の重視だけではなく、旅行商品の高付加価値化や地方誘客を通じた質的向上による観光消費額の拡大や、需要の分散によるオーバーツーリズムへの配慮など、日台双方が持続可能な取り組みを深化・促進させ、観光交流の持続的な発展を実現することとした。

今回の「日台観光サミット」は、台湾・高雄市で開催することに合意し、日台双方の観光産業界の絆を更に強くして、観光交流のさらなる活性化に取り組んでいくことで合意した。



※写真＝日台観光サミットで課題を議論



※写真＝愛知県が歓迎セレモニー主催



※写真＝歓迎晩餐会で鏡割り

★香港ディズニー「アナ雪」テーマランド開業前入場ツアー KNTとHISが発売、さまざまな特典付与

香港ディズニーランドに11月20日にグランドオープンするテーマランド「ワールド・オブ・フロズン」の先行入場体験付ツアーを近畿日本ツーリストブループラネットとエイチ・アイ・エスの2社が9月8日から発売した。同テーマランドは「アナと雪の女王」を題材とした世界初の施設。今回のツアーではグランドオープンに先駆けて新エリアを楽しむことができるほか、ツアー参加者限定の各種特典を用意した。

近畿日本ツーリストブループラネットのツアーは11月16～18日出発の2泊3日と3泊4日のコースを用意。合計300人限定で販売する。ワールド・オブ・フロズンの先行入場を確約し、いち早く体験できるほか、各出発日30人限定で香港ディズニーランド・ホテルでの「スターライト・ピクニック体験」やプロジェクトマッピングショーの「モーメントス」の特別観覧エリアへの入場。ディズニー直営ホテル「アナと雪の女王」デコレーション・ルームの宿泊など5つのプレミアム体験プランを用意した。

このほか同社のツアー参加者全員にパーク内の「ダッ

フィー&フレンズ プレイ・ハウス」でのキャラクター・グリーティング用ディズニー・プレミア・アクセスを付与する。

さらにツアーで利用するキャセイパシフィック航空のフライトはカーボンオフセット付きとなっている。例えば羽田発の場合は520kgのCO2排出量をオフセットするなど、環境にも配慮した商品となっている。

HISのツアーも11月15日～18日出発で各日最大80人を募集する。11月17～19日に先行特別体験が可能で参加者には記念参加者証を贈呈する。またアナと雪の女王のショッピングバッグと非売品のポストカードセットをプレゼントする。オフィシャル・ホテルに宿泊するプランや、1デー・2デー・チケット付きなど各種プランも用意している。

さらに、パーク内ショップで400香港ドル以上の買い物をすると20%割引となるのを始め、「スノー・フレイク・チュロス」や「エクスプローラーズ・クラブ」のセミbuffetの割引特典などを用意した。

両社のツアー詳細は以下のサイトを参照。

※近畿日本ツーリストブループラネットのツアー詳細URL
<https://www.knt.co.jp/holiday/sp/disney/hongkong.html>

※HISのツアー詳細URL
<https://www.his-j.com/theme/disney/kaigai/hongkong/kanto.html>



※画像＝近畿日本ツーリストブループラネットとHISが香港ディズニーランドの特別ツアーを発売

★観光庁、大阪IRの実施協定認可申請を受理 整備計画の変更も、開業見込み2030年秋に後ろ倒し

観光庁は4月に国土交通大臣の認定を受けた「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」（大阪IR区域整備計画）について9月8日付で大阪府と大阪IRから区域整備計画の変更をした旨の届出と実施協定の認可申請を受け付けたと発表した。今回の変更では投資規模について約1兆2700億円となるととも開業見込みが当初の2029年秋～冬から2030年秋ごろに後ろ倒しとなることとした。

大阪IRは大阪市の夢洲地区の約49.2万平方メートルの敷地に整備することとしている。投資規模については約1兆

2700億円となり、日本MGMリゾート、オリックスと計20社の少数株主が出資するほか、約5500億円については借入を行う。年間売上は約5200億円、大阪府・大阪市への入場料納入金・納付金は約1060億円を見込む。



※画像＝大阪IRの実施協定認可申請を受理（画像は開業イメージ（大阪府発表資料より））

★KNT-CT、7月の旅行総取扱額は218.3億円 コロナ前の55.6%水準、前年からは25.6%増

KNT-CTホールディングスグループ5社の7月の旅行総取扱額は218億3000万円となった。前年からは25.6%の増加となった。一方で新型コロナウイルス感染拡大前の2018年度との比較では44.4%減となった。国内旅行はコロナ前の60.0%の水準まで戻る半面で海外旅行については33.0%水準にとどまった。

国内旅行の取扱額は137億円となった。団体旅行は2018年度比で27.2%減となった。内訳は一般団体が35.1%減、学生団体は15.4%減となった。企画旅行については40.0%減となった。国内自社企画は57.3%減、クラブツーリズムの国内旅行は29.6%減となった。

団体旅行については修学旅行の取扱額が2018年度に近く一方で企業系コンベンションの取扱額が減少した。国内企画旅行についてはウェブ広告の中断や夏キャンペーン開始時期が後倒しとなったことが影響した。クラブツーリズムの国内旅行はテーマ型旅行や祇園祭の取扱いは増加したものの、全国旅行支援終了の影響により6月に需要を先取りしたことなどが影響した。

海外旅行の総取扱額は45億9000万円となった。海外団体は30.2%減となった。内訳は学生団体が53.4%増、一般団体が52.1%減となった。企画旅行については海外自社企画が96.0%減、クラブツーリズムの海外旅行は77.4%減となった。

団体旅行については学生団体が語学研修団体の取扱いが増加し18年度を上回る実績となった。一般団体については視察旅行が復活しつつあるものの、職場旅行や報奨旅行の取扱が18年度までの回復に至らなかった。企画旅行については自社企画商品が海外企画商品のプロモーションが不足していたこともあり販売が低迷した。クラブツーリズムの海外商品についてはビジネスクラスを利用したツアーが増

加。またヨーロッパ方面が好調により平均旅行単価が増加したものの2018年度におよばない結果となった。

訪日旅行については大型国際会議やワークショップなどに加え、世界水泳福岡大会事前合宿案件や訪日個人旅行者向けオンライン宿泊販売が好調に推移したことで、18年度比32.6%増の22億3500万円となった。

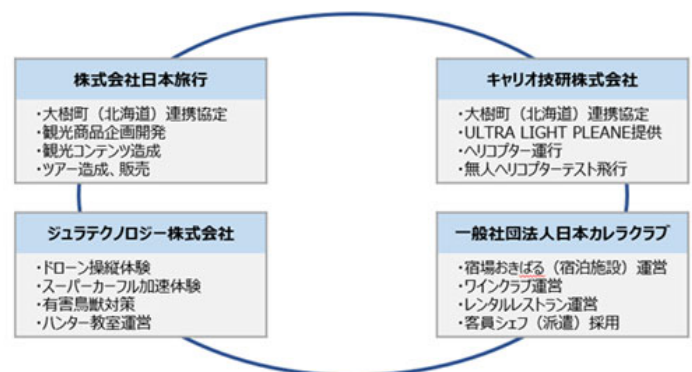
★日本旅行4社・団体、北海道大樹町の観光振興で連携 「TAIKI圏内で連携」テーマに宇宙と絡めた地域振興展開

日本旅行とキャリオ技研、ジュラテクノロジー、一般社団法人日本カレラクラブの4社・団体は北海道大樹町における観光振興と航空・宇宙のまちづくりを目的としたパートナーシップ協定を締結した。同町にある北海道スペースポートを利活用した航空宇宙にまつわる観光商品の企画開発やプロモーション、旅行者の受け入れ環境整備などに取り組む、地域の活性化へ貢献していく。

4社・団体は大樹町が展開する「航空・宇宙のまち」をコンセプトとした地域振興策に関与しており、観光商品の開発や宿泊施設の運営、観光素材の開発などに取り組んできた。

今回4社・団体によるパートナーシップ協定により、大樹町の魅力を活かした新たなコンテンツを生み出し、商品化して伝えるサイクルを作り出す。「TAIKI圏内で体験」をコンセプトに宇宙に限らない大気圏内の宙（そら）での感動体験を提供する観光商品の企画開発や国内外旅行者の受け入れ環境整備などに取り組んでいくとしている。

パートナーシップ協定枠組み



★東武トップツアーズ、農村RMO推進研究会を開催 農水省と共催、事例発表やディスカッション実施

東武トップツアーズは農林水産省と共同で「農村RMO推進研究会」を9月22日に開催する。農村型地域運営組織（農村RMO）の普及・啓発や農村RMOに取り組もうとする関係者の知見向上が目的。当日は「農用地保全のためのプロセス学習」をテーマに事例紹介とパネルディスカッションを行う。

農村RMOは複数の集落の地域を補完して農用地保全活動や農業を核とした経済活動とあわせて、生活支援等地域コ

コミュニティの維持に資する取り組みを行う組織。高齢化や人口減少が進む中で広域的な範囲で支え合う農村RMOの推進などを一層推進していく必要があるとされている。

今回の農村RMO推進研究会では農村RMO形成に取り組んでいる富山県、和歌山県、高知県の3団体が事例発表を行う。そののち、全国農業会議所の稲垣照哉専務理事、農業ジャーナリスト・明治大学客員教授の榊田みどり氏、岩手地域づくり支援センターの若菜千穂常務理事と事例発表を行った3団体を交えてパネルディスカッションを行う。

研究会はオンラインで実施。申込はセミナー専用サイトから行う。

※セミナー専用サイトURL

<https://nouson-rmo.jp/seminar/01.php>



※画像＝東武トップツアーズは農林水産省と「農村RMO推進研究会」を開催

★オーシャニア・クルーズ、25年アリュウラ就航 9月14日に販売開始、全26コース・92寄港地

オーシャニアクルーズが2025年夏に就航を予定する新造船「アリュウラ」の運航計画を発表した。全26クルーズ、92以上の港に寄港し、日程は7泊から34泊まで多彩なクルーズ計画で、9月14日から販売される。新造船の客室標準サイズは専有面積が27㎡と広いスペースが確保される。アリュウラは乗客数1200名。

アリュウラの初クルーズは2025年6月8日発。7泊で東地中海を舞台にアテネからイスタンブールまでのクルーズ。オープニングシーズンのクルーズはヨーロッパの主要港はもとより、カディス、カリアリ、メッシーナ、パルマ・デ・マヨルカ、パレルモ、チンクエッテッレなどのまだあまり知られていない小規模港にも立ち寄る。

またイスタンブール、モンテカルロ、ケベックシティ、モントリオール、ニューヨークでの1泊の停泊が組み込まれるなど、地中海での夏シーズンに続いて、北米のカナダとニューイングランドをクルーズする。冬シーズンはカリブ海に向かう。

オーシャニアクルーズのフランク・A・デル・リオ社長は「アリュウラはオーシャニアクルーズのダイナミックで輝かしい未来そのもの。初就航シーズンのクルーズは、お気に入りの旅行先であれ、初めて訪れる地であれ、常に新鮮な発見に出会え、好奇心旺盛な世界中の旅人を魅了するはず」と自信を示した。

※オーシャニアクルーズ公式サイトURL

<http://www.OceaniaCruises.com>



※写真＝25年夏に初就航するアリュウラクルーズの販売を9月14日に開始

【航空関連】

★7月の全国空港利用、国際旅客が急速に回復 国内も堅調な伸び、貨物は国際低調も国内増加

東京航空局および大阪航空局がまとめた7月の空港利用概況（速報値）は、東日本の35空港では国際線旅客が前年同月比322.4%増の420万7062人になり、国内線旅客が17.7%増の893万9902人となった。西日本の61空港では国際旅客が1381.7%増の253万3178人で、国内線旅客が16.7%増の901万5250人となった。

国際線旅客は前年に比べて大幅に増加しており、特に西日本で顕著にあらわれた。水際対策を緩和し、新型コロナウイルスの扱いを5類に引き下げたことなどによって、地方空港でも国際線の復便などで旅客数が増加した。

主要空港ごとに見ると、羽田空港は国際旅客が375.2%増の162万6369人で、国内旅客が15.7%増の497万7287人だった。新千歳空港では国際旅客が1万972.4%増の29万4028人で、国内旅客が20.1%増の239万3589人となった。福岡空港では国際旅客が1838.7%増の54万2292人で、国内旅客が15.5%増の139万2408人。那覇空港では国際旅客が414万%増の16万5604人、国内旅客が9.4%増の154万6829人となった。

取扱貨物については、東日本の国際線貨物が8.3%減の2億933万9504キロで、国内線貨物が6.8%増の5535万7550キロだった。西日本では国際線貨物が5.1%減の7527万7589キロで、国内線貨物が0.8%増の4568万8292キロとなった。

※東京航空局発表の東日本7月速報値

<https://jwing.net/w-daily/pict2023/2309/0908cab-tokyo.pdf>

※大阪航空局発表の西日本7月速報値

<https://jwing.net/w-daily/pict2023/2309/0908cab-osaka.pdf>

★KAL、小松・岡山・鹿児島-ソウル間でチャーター便 韓国大型連休で、小松と岡山はコロナ禍後初運航

大韓航空（KAL）は小松・岡山・鹿児島の国内3都市とソウル（仁川）間でチャーター便を運航すると発表した。韓国の秋の連休にあわせて運航することを決めた。小松と岡山の2空港についてはコロナ禍後初となる旅客便の運航となる。

今回のチャーター便は韓国の旅行者が搭乗するインバウンドチャーターで9月28日から10月4日にかけて各3往復運航する。韓国の秋の連休「秋夕（チュソク）」の旅行需要に対応する。

大韓航空のソウル-小松、岡山路線はコロナ前は定期便の運航を行ってきたが2020年3月から運休が続いており、今回は約3年半ぶりの運航となる。同社は今回のチャーター便運航を契機として定期便の運航を目指していくとしている。



※写真＝大韓航空が小松・岡山・鹿児島3都市へチャーター便運航

★エミレーツ、ブルガリアアメニティキット搭載 長距離線などに新コレクションを提供

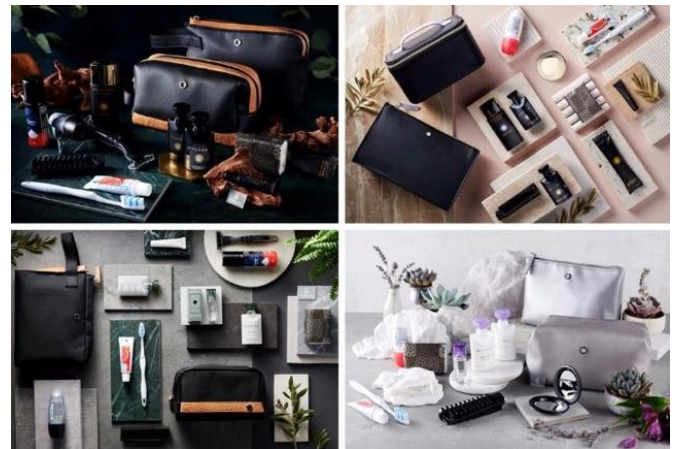
エミレーツ航空は、ファーストクラスとビジネスクラスの秋冬シーズン向けアメニティキットとして、ブルガリアの新コレクションを長距離便などに搭載

する。新たなカラーバリエーションやフレグランス、特製ミラーをはじめとするブルガリアの新しいアメニティを揃える。

ファーストクラス、ビジネスクラス向けのアメニティポーチには、エミレーツ航空のためだけにデザインされたボトルに詰められたブルガリアのフレグランスが入っている。新しいポーチはファーストクラスとビジネスクラスを合わせて全8種展開で、ブラックのファブリックにタンをあしらったクラシックなデザイン、シルバーにライラックを施したコンテンツポラーリなデザイン、ブラックにライラックをアクセントに加えた落ち着いたデザインを用意した。

ビジネスクラスの新しいアメニティキットは、パントーンカラーのシルバーを採用し、ポーチとクラシックなトイレタ

リーバッグの2種の形状を用意した。どちらも光沢のあるメタリックシルバーのビーガンレザーに、ライラックのアクセントを加えた。このキットでは複数のブルガリア製品のほか、「ブルガリア オムニア アメジスト オードトワレ」も提供する。



※写真＝長距離路線などにブルガリア新コレクションを提供

【デスティネーション】

★ケベックシティ観光局、セミナー開催 エア・カナダと共催、冬の楽しみ方など訴求

カナダのケベックシティ観光局は、エア・カナダと共催で「カナダ・ケベック州ケベックシティ観光セミナー」を開催した。ケベック州の州都で400年の歴史があり、世界遺産にも指定されているケベックシティやその周辺の魅力、また冬の楽しみ方などを訴求した。成田からケベック州のモントリオールへ直行便を運航するエア・カナダはケベックシティへのアクセスなど最新情報を伝えた。

冒頭の挨拶で、ケベック州政府在日事務所のシェニエ・ラサール代表は、自身のエピソードを交えながら、「ケベック州でモントリオールのほかに、もうひとつ足を運ぶならケベックシティをおすすめしたい。北米で最もヨーロッパの雰囲気があり、特別な魅力を持っているので、ぜひ訪れて頂きたい」とアピールした。

またケベックシティ観光局デスティネーション&ビジネス開発担当のシモン・マリニエ氏は、ケベックシティの強みとして、「フランス語圏の北米文化に浸れる忘れられない本物の体験ができる」点を挙げた。

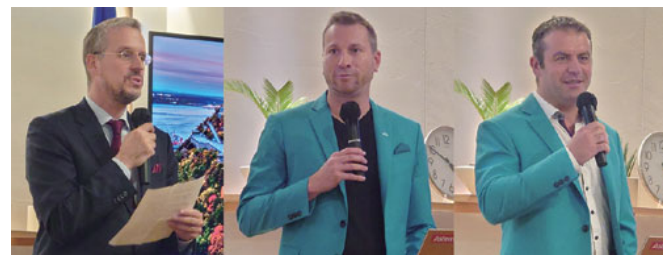
ケベックシティは、メキシコシティ以北で唯一城壁のある要塞都市として、古い歴史がある。観光局国際市場担当のパトリック・ルメール氏は、歴史、文化の魅力や、ケベック州東部の玄関口として、大自然に触れる体験もできる点、食やウェルネス、アウトドア、近郊で先住民の体験ができる点を紹介した。

さらに冬の魅力として、クリスマスマーケットやイルミネーション、氷でできたアイスホテル、さらに70年の歴史を誇る冬の一大イベント「ウィンター・カーニバル」につい

でも触れた。エア・カナダからは、ケベックシティへのアクセスについて紹介。成田や羽田からモントリオール、またはトロント経由で同日乗り継ぎができるほか、ケベックシティ―バンクーバー線が就航したことで、今年の夏に運航再開した関西―バンクーバー線との同日乗り継ぎも可能となった。

ほかにも乗り継ぎの流れやビジネスクラス（エア・カナダ シグネチャークラス）利用時の空港ラウンジについて紹介。現在「メープルリーフラウンジ」に加え、ビジネスクラス航空券購入者専用で、レストランのようなオーダーサービスで食事などが楽しめる「エア・カナダ シグネチャースイート」（トロントとバンクーバーのみ）、コーヒースタンドのように気軽に利用できる「カフェラウンジ」も提供する。

今回のセミナーに協力したカナダ観光局からは現在展開しているプロモーション「カナダの、その奥へ。」について説明。ストーリー性があり、付加価値の高い体験を訴求するほか、6月からは東部カナダの秋に焦点を当てたキャンペーンを展開。テレビ番組など、メディア、オンラインのアプローチを強化している。カナダ観光局旅行業界担当の小西美砂江氏は、「ケベックシティは、人気のメープル街道の中で最も強力な集客力を持つ都市。SNSで投稿する際もエンゲージメントが高い」と指摘した。



※写真＝左からケベック州政府在日事務所のラサール代表、ケベックシティ観光局マリニエ氏、ルメール氏

【宿泊関連】

★IHG、ビジネスリワーズポイント2倍キャンペーン 宿泊、ミーティング、イベント利用で

IHGホテルズ&リワーズは2024年6月30日まで法人向けの会員プログラム「IHGビジネスリワーズ」向けに宿泊、ミーティング、イベント利用でポイントを2倍付与するキャンペーンを実施する。

今回のキャンペーンは通常1USドルにつき3ポイント付与するものを2倍の6ポイント付与する。1つのイベントにつき最大で合計12万ポイントを獲得することができる。獲得したポイントは無料宿泊特典、デジタルコンテンツのダウンロード、オンラインカタログのアイテムなどに交換することができる。

ポイント2倍キャンペーンの対象予約期間は今年12月31日まで。滞在は6月30日までが対象となる。

※IHGホテルズ&リゾーツのウェブサイト

<https://www.ihg.com/hotels/jp/ja/reservation>



※写真＝IHGビジネスリワーズのポイント2倍キャンペーンを実施